

浜松市人口ビジョン 浜松市総合戦略 策定方針

平成27年6月21日
企画調整部企画課

策定の根拠（策定方針1ページ）

まち・ひと・しごと創生法（平成26年11月21日成立。平成26年12月2日施行）

少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたり活力ある社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的としている。

市町村は、まち・ひと・しごと創生総合戦略及び都道府県総合戦略を勘案し、**市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略を定めるよう努めなければならない**と規定されている。

【参考】まち・ひと・しごと創生法（抜粋）

第10条 市町村（特別区を含む。以下この条において同じ。）は、まち・ひと・しごと創生総合戦略（都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略が定められているときは、まち・ひと・しごと創生総合戦略及び都道府県まち・ひと・しごと創生総合戦略）を勘案して、当該市町村の区域の実情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画（次項及び第3項において「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」という。）を定めるよう努めなければならない。

国の長期ビジョン、総合戦略の構成（策定方針2ページ）

まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」の全体像



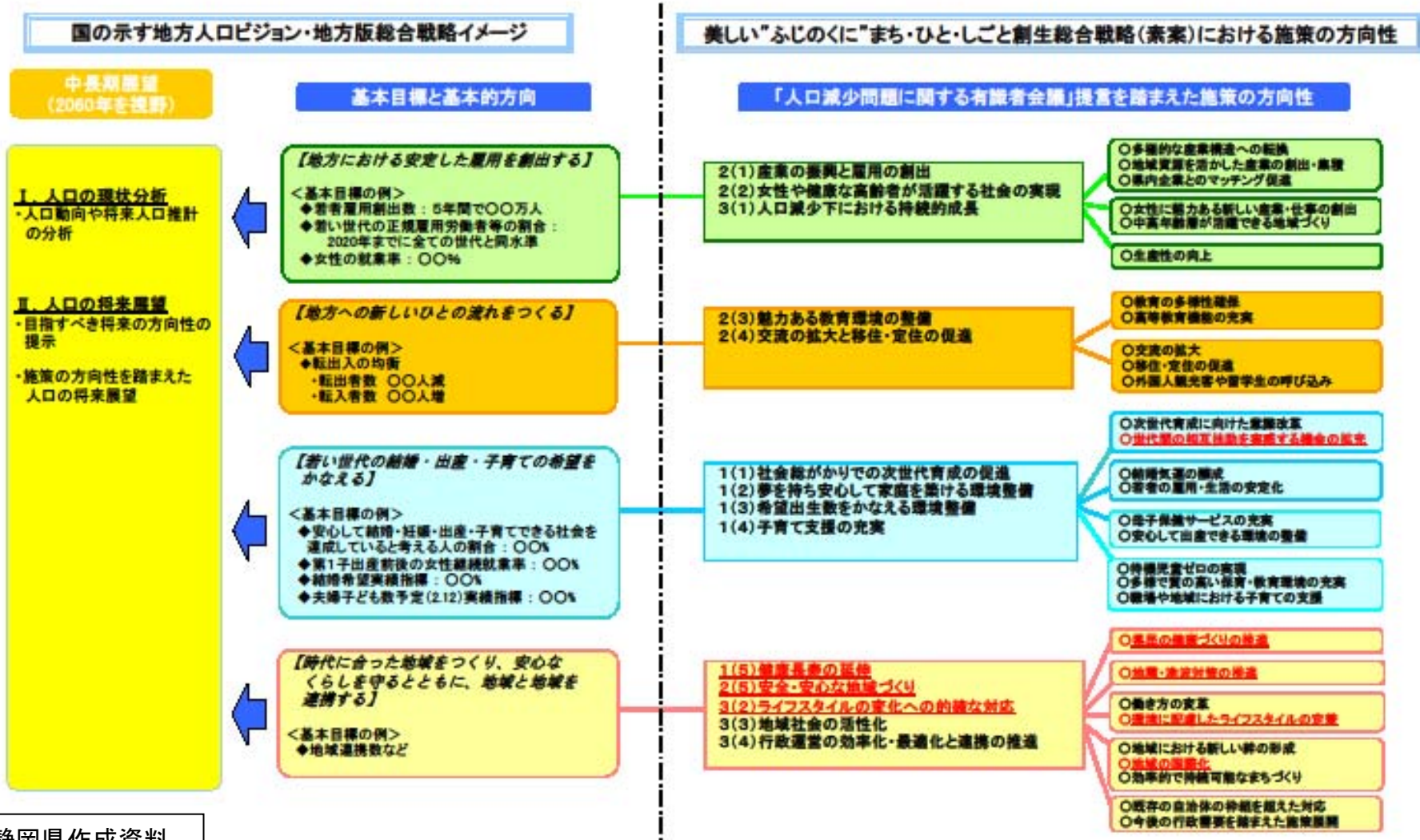
※1 Key Performance Indicatorの略。政策ごとの達成すべき成果指標として、日本再興戦略(2013年6月)でも設定されている。

※2 米国では高齢者が移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービスを受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような共同体(Continuing Care Retirement Community)が約2,000カ所ある。

静岡県 の 動 向 （ 策 定 方 針 3 ペ ー ジ ）

資料 3

美しい”ふじのくに” まち・ひと・しごとと創生総合戦略(素案) 構成イメージ



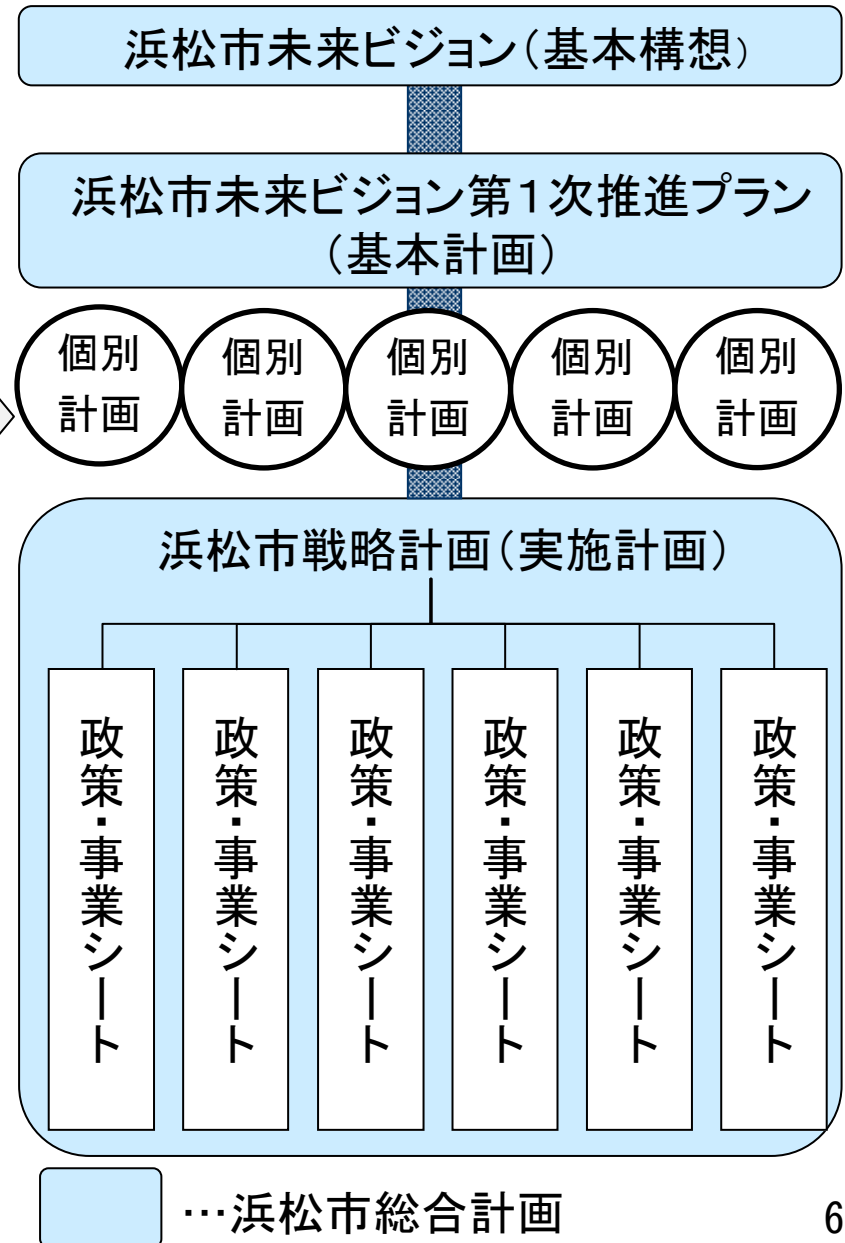
本市の方針（策定方針4ページ）

- 人口減少・超高齢社会の本格的な到来という人口問題に対しては、子どもが成長して大人になり、そして子どもを産むといったサイクルである、20年から30年周期での構想が必要である。平成27年度からスタートした新・総合計画基本構想は、長期的な視点で30年後の未来を描いたものであり、**持続可能な都市経営のため、人口問題も踏まえた上で策定**を行った。これは、国の地方創生の考え方を先取りしたものであり、**国の示した将来像と本市が描いた未来は共通認識の上に成り立っている。**
- 基本構想で定めた都市の将来像「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」の実現をより確実なものとするため、本市においても国及び静岡県の実施戦略を勘案し、**浜松市人口ビジョン及び浜松市総合戦略の策定を行う**こととする。

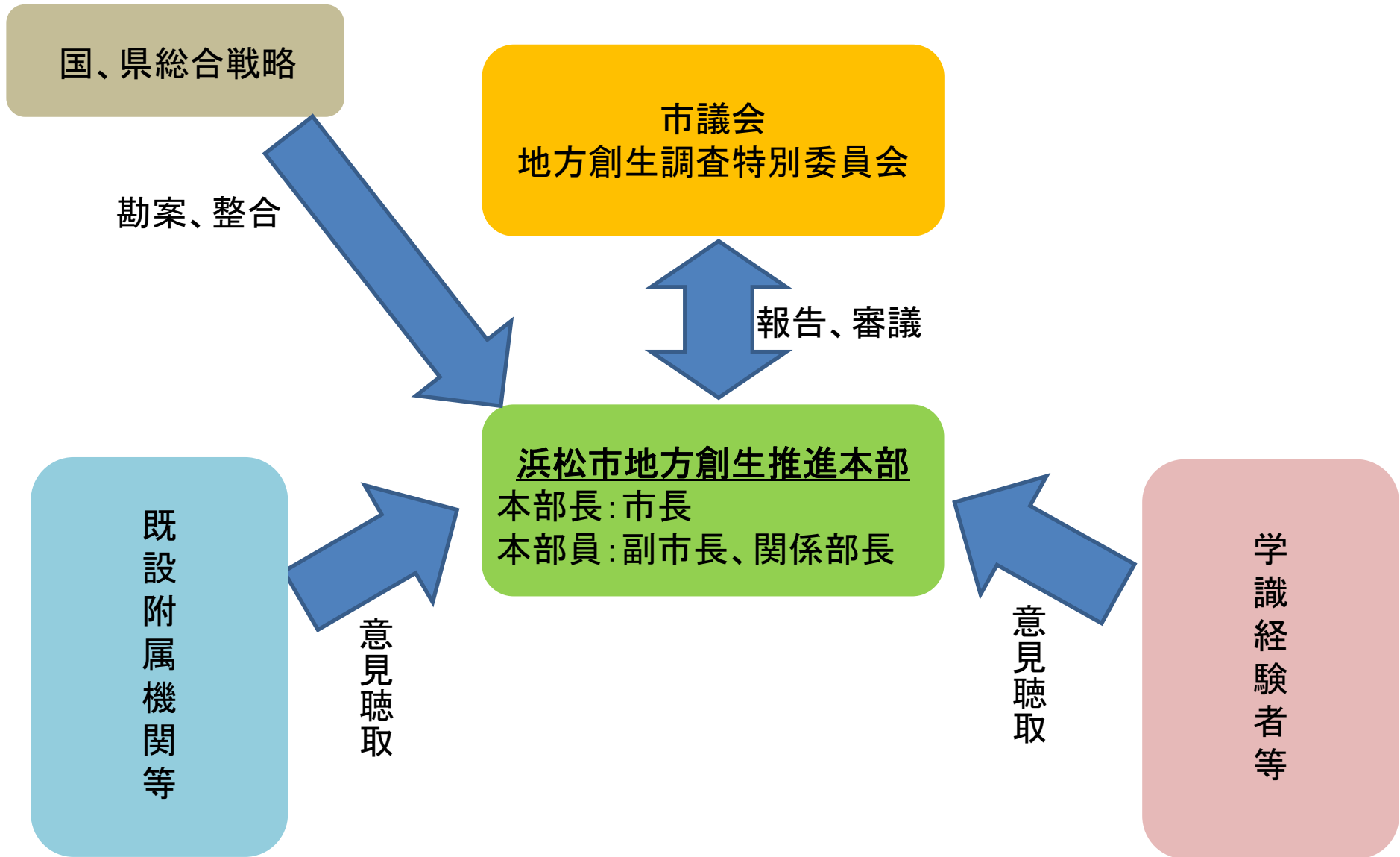
新・総合計画との関係、位置づけ（策定方針5ページ）

浜松市人口ビジョン及び浜松市総合戦略の策定については、**市政の根幹となる新・総合計画を基本とし、本市の特色を活かした独自性のある人口減少対策**を定める。

ビジョン、総合戦略も個別計画の一つ



策定体制（策定方針6ページ）



人口ビジョン・総合戦略の構成、基本目標（策定方針6、7ページ）

浜松市人口ビジョン

◎人口の現状分析

- ✓人口動向分析…総人口、年齢3区分別人口、出生数、死亡数、転入数、転出数等の時系列の状況进行分析
- ✓人口動態分析…過去の社会移動について、転入元及び転出先の地域を年齢3区分別、世帯人数別に調査、分析
- ✓将来人口の推計と分析…出生率や移動率などについて仮定値を変えた総人口推計の比較や将来人口に及ぼす自然増減、社会増減の影響度の分析
- ✓人口の変化が地域の将来に与える影響の分析、考察

◎人口の将来展望

- ✓将来展望に必要な調査、分析…市民の結婚、出産、子育てや移住に関する意識、希望等の調査、分析
- ✓目指すべき将来の方向…目指すべき将来の方向性や住民の希望を実現するための基本的な施策の方向性を提示
- ✓人口の将来展望…自然増減と社会増減を勘案し、総人口や年齢3区分別人口等の将来を展望

浜松市総合戦略

◎基本目標

- ✓若者がチャレンジできるまち
- ✓子育て世代の徹底サポート
- ✓創造産業があふれるまち

◎基本的方向

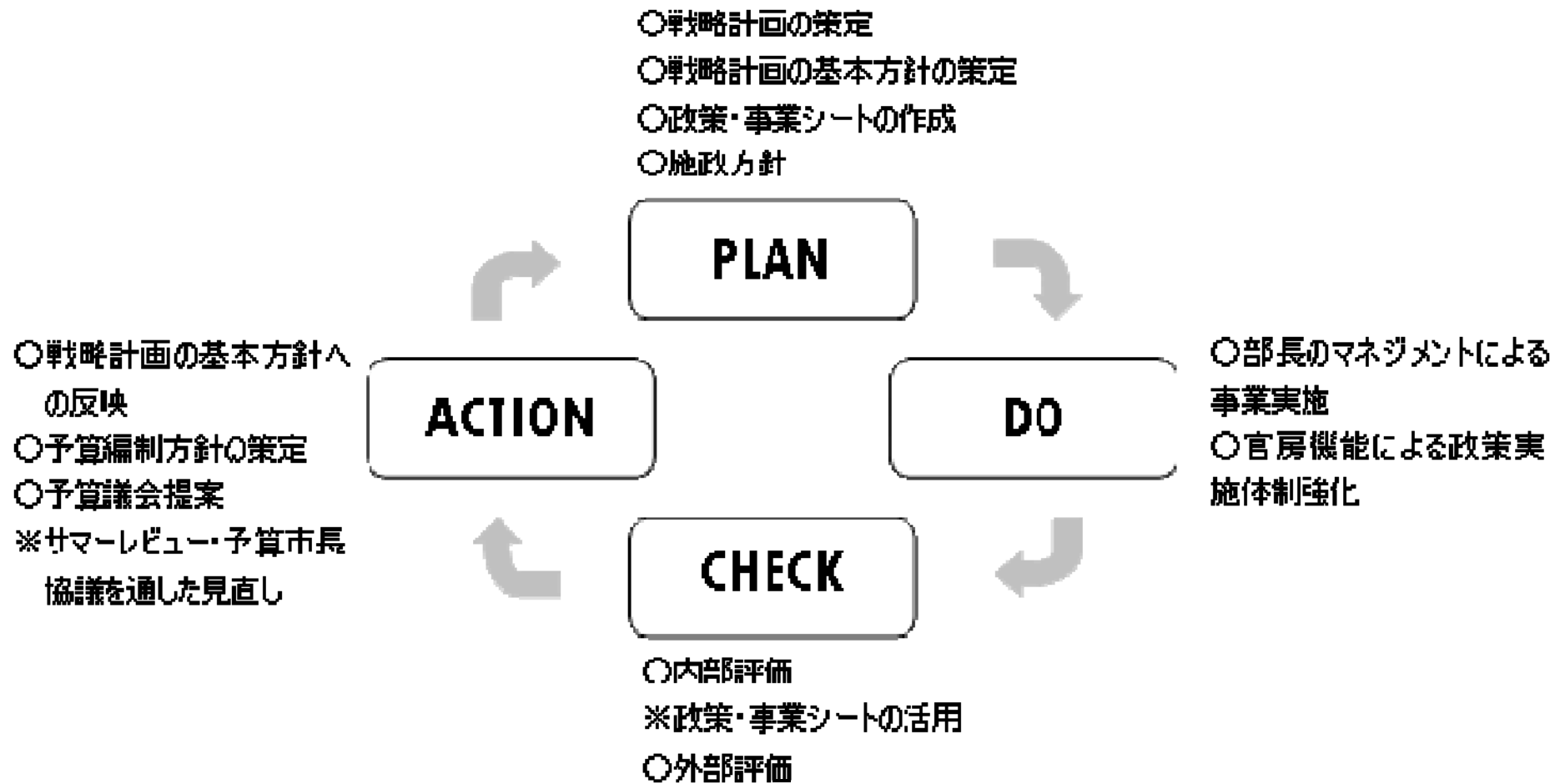
◎具体的な施策

◎数値目標・重要業績評価指標

策定スケジュール（策定方針14ページ）

	浜松市地方創生 推進本部会議	附属機関等	市議会 地方創生調査特別委員会	県地域会議	市民等意識調査
4月	設置			↑	既存調査照会
5月	・人口動向分析 ・将来人口推計 ・人口影響分析		報告		市民意識調査
6月	骨子協議			静岡県主導で開催	有識者ヒアリング
7月	・人口将来展望 ・基本的方向 ・具体的な施策				意識調査分析
8月	素案協議				
9月	・素案修正 ・数値目標設定	報告	報告		
10月	中間案協議				
11月	・中間案修正 ・国との調整 ・県との調整 ・次年度予算への反映、協議				
12月		報告	報告	↓	
	完成				

策定後の効果検証（策定方針15ページ）



【参考】 庁内プロジェクトチームにおける議論の概要
(策定方針8～13ページ)

将来推計人口から見る本市の将来

区分	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年	平成52年	平成57年
総数	800,866	796,490	784,867	768,049	747,511	723,542	694,887	664,406
年少人口	113,261 (14%)	107,200 (13%)	99,053 (13%)	90,164 (12%)	83,446 (11%)	79,308 (11%)	76,164 (11%)	72,506 (11%)
生産年齢人口	504,409 (63%)	478,631 (60%)	459,544 (59%)	443,812 (58%)	424,368 (57%)	398,930 (55%)	365,212 (53%)	339,620 (51%)
老年人口	183,196 (23%)	210,659 (26%)	226,270 (29%)	234,073 (30%)	239,697 (32%)	245,303 (34%)	253,512 (36%)	252,280 (38%)
老年人口 [75歳以上]	[90,064] (11%)	[103,723] (13%)	[118,143] (15%)	[137,336] (18%)	[145,995] (20%)	[147,576] (20%)	[146,591] (21%)	[148,429] (22%)

単位:(人)

高齢化率	22.9	26.4	28.8	30.5	32.1	33.9	36.5	38.0
従属人口割合	58.8	66.4	70.8	73.1	76.1	81.4	90.3	95.6
老年化指数	161.7	196.5	228.4	259.6	287.2	309.3	332.8	347.9

単位:(%)

年少人口 の減少

・次の世代でも人口減少に歯止めが
かからず、高齢化率も増加
⇒人口構成がいつまでも適正化
しない悪循環に陥る。

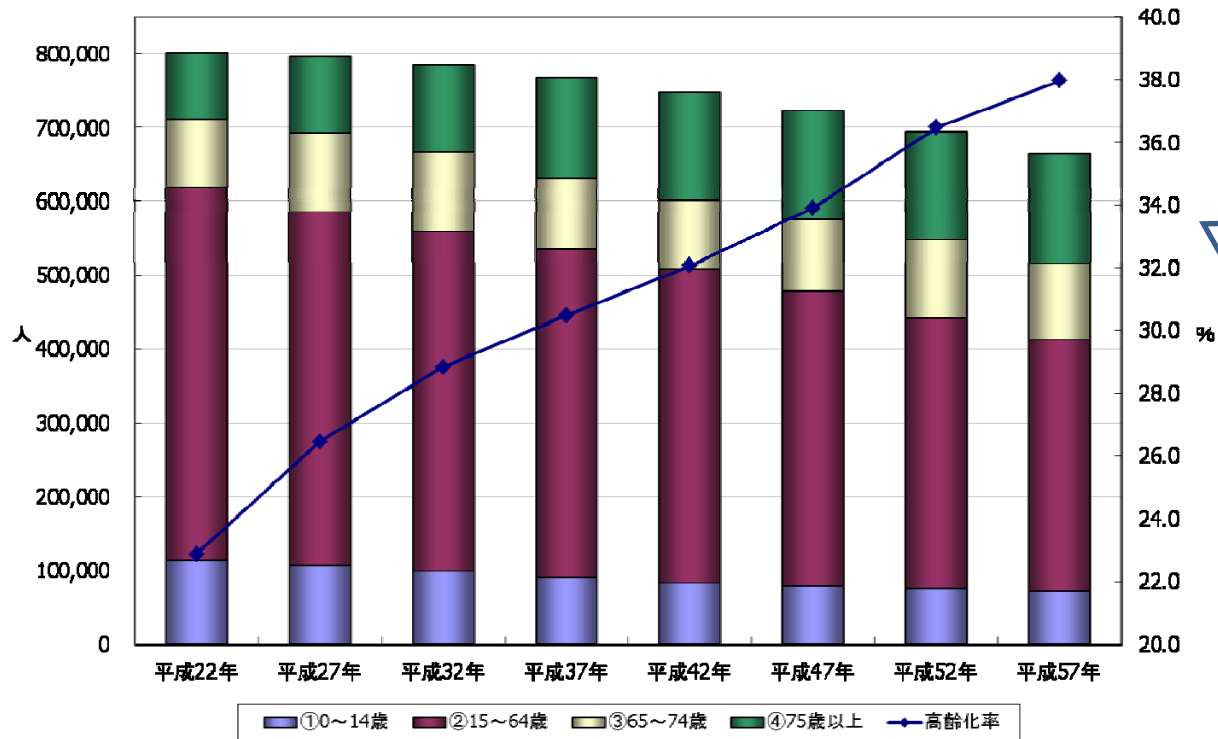
生産年齢 人口の減少

・労働力の低下
・産業・地域経済の衰退
・少子化・人口減少の進行

老年人口の 増加

・地域コミュニティの維持困難
・社会保障費の増大による財政圧迫

人口構成の比重が高齢者へスライド



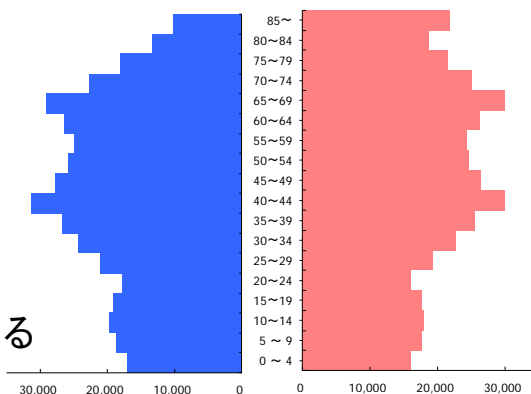
4人に1人が
高齢者

↓ 30年後

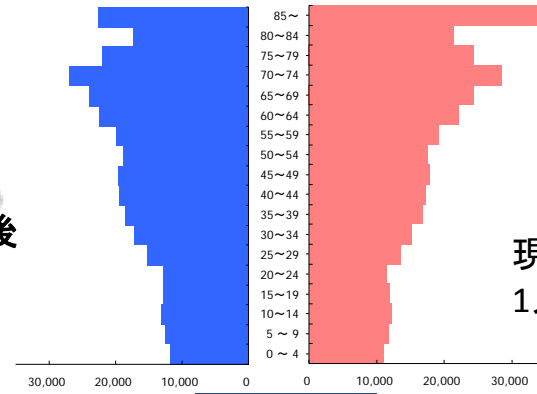
5人に2人が
高齢者



現役世代2.27人で
1人の高齢者を支える



H27推計



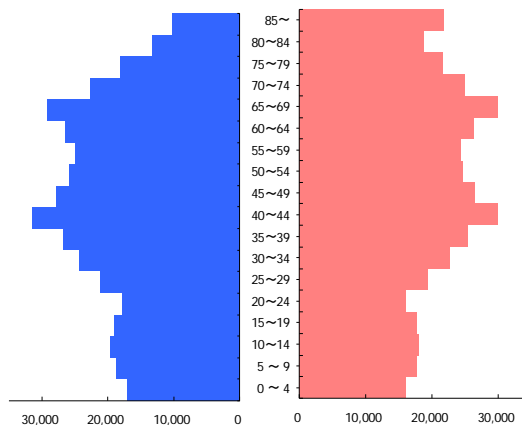
H57推計



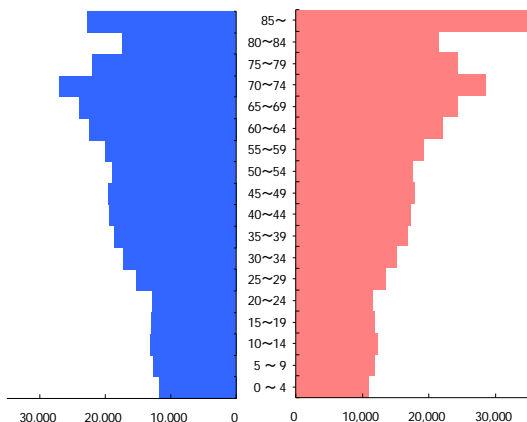
現役世代1.34人で
1人の高齢者を支える

人口構成の最適化に向けた課題 ①出生率の増加

H27推計(出生率1.456)

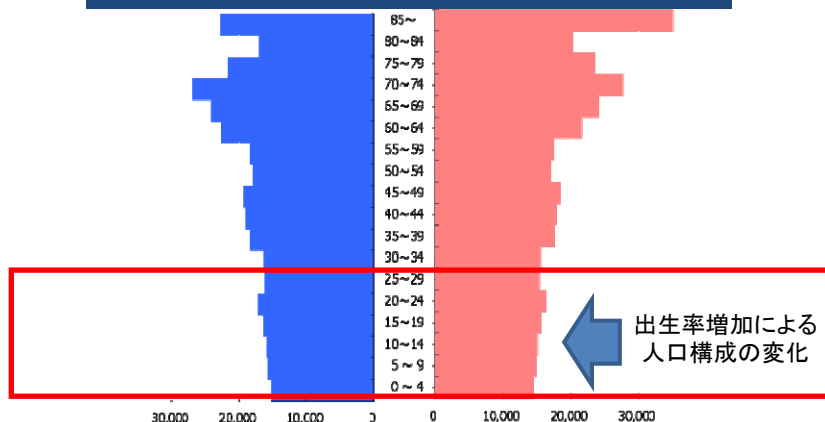


H57推計(出生率1.493)



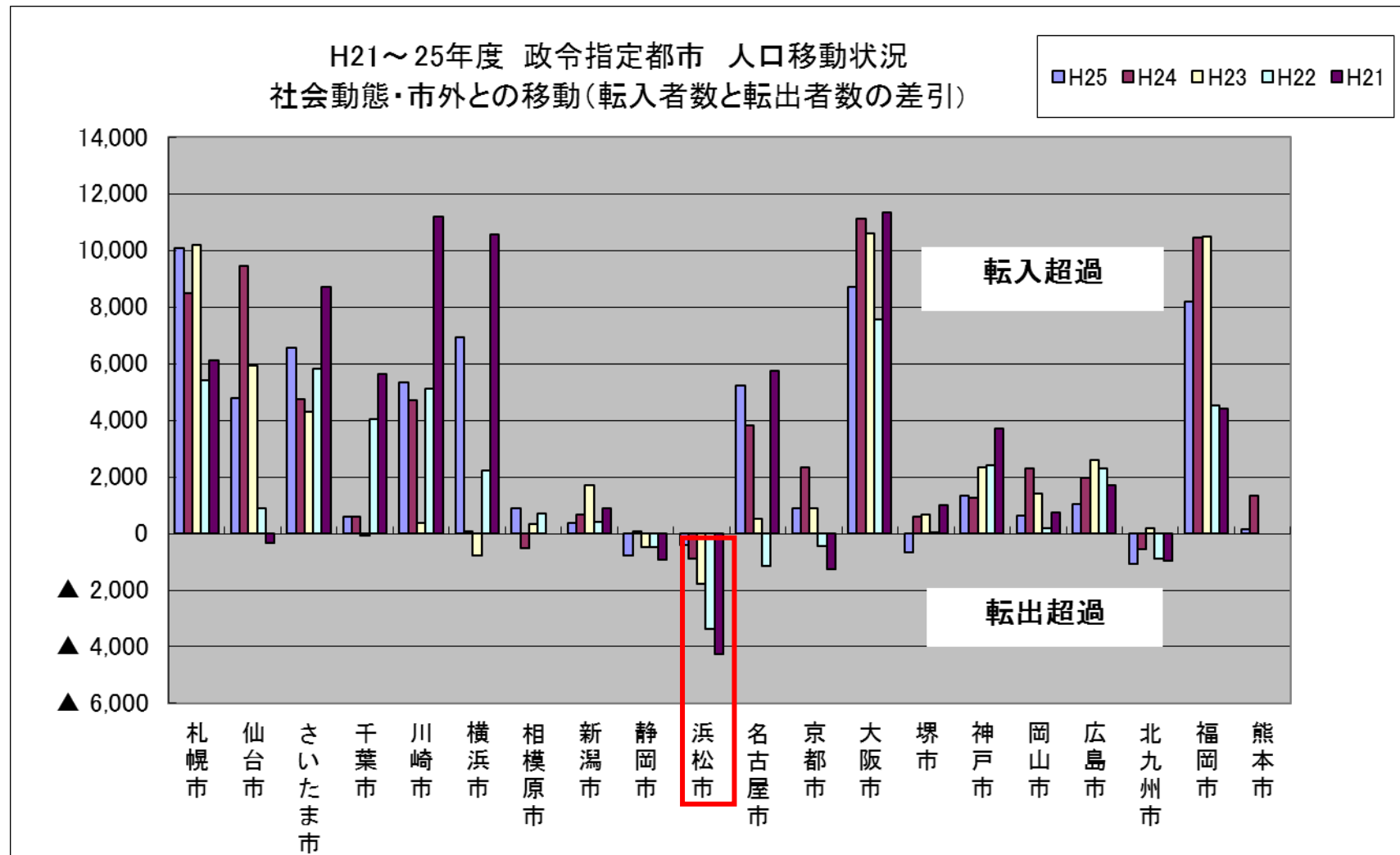
30年後

☆H57推計
(H37に出生率1.84に向上すると仮定)



出生率増は喫緊の課題。
しかし、出生率の増加による人口構成の好転が実感できるまで、20年以上かかる。

人口構成の最適化に向けた課題 ②人口流出の抑制

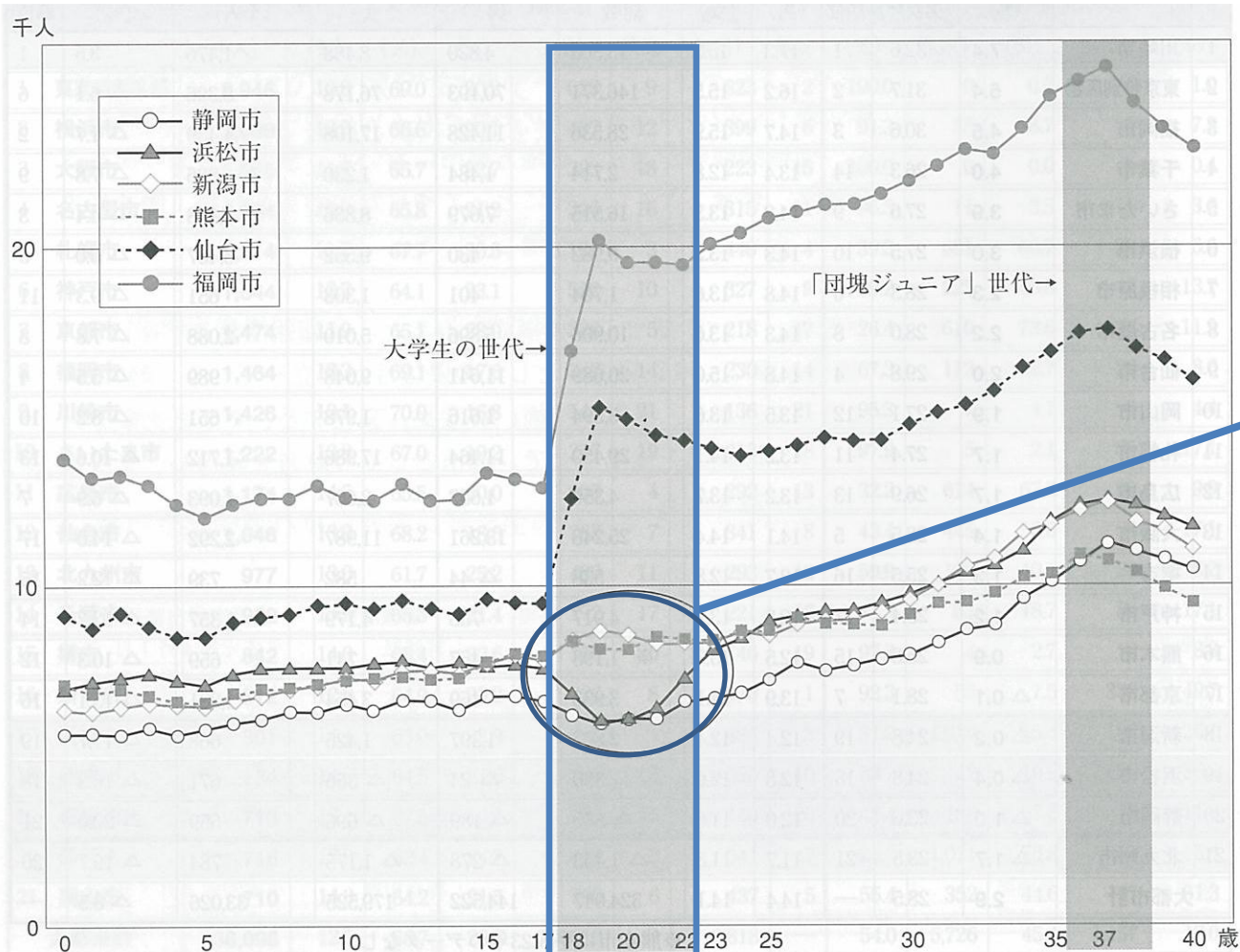


政令市20市中 浜松市のみ 5年連続 転出超過。
政令市中、出生率は高い傾向にあり、人口流出の抑制が大きな課題。
出生率の増加と並行して取り組まなければならない。

【現状分析①】本市の年齢別人口分布の特徴

18～22歳の人口減は、政令指定都市20市中浜松市・静岡市のみの傾向

主な地方都市の年齢別人口分布



18～22歳
大学進学に伴う転出
による人口減

23歳
大卒者の雇用により、
転出した人口分を補完

☆新卒者など若者の
雇用確保が大きな課題

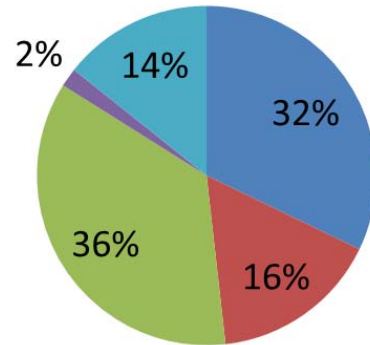
資料：総務省「平成22年国勢調査」

出典：SERI研究季報2014秋号

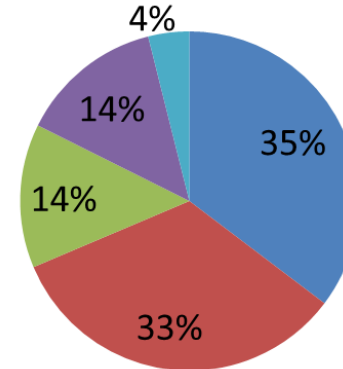
【現状分析②】 若者の雇用確保 市内大学卒業者の就職状況

約半数が静岡県内、東海地域で就職し、半数が関東などの地域へ

静岡大学 情報学部



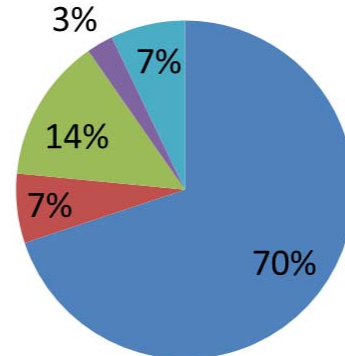
静岡大学 工学部



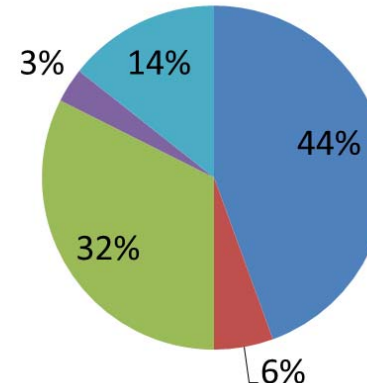
■ 静岡県内 ■ 東海 ■ 関東 ■ 関西 ■ その他

※数値は各大学公式HP主な就職先データによる

静岡文化芸術大学 文化政策学部



静岡文化芸術大学 デザイン学部



両大学の学生の出身地は、約半数が静岡県、愛知県。
地元大学に進学する学生は地元への就職意欲が高い？
浜松に就職を希望する学生の受け皿は充分にあるか？

【現状分析③】本市の産業構造の特徴

1次産業、2次産業の就業率が政令指定都市20市中最も高い

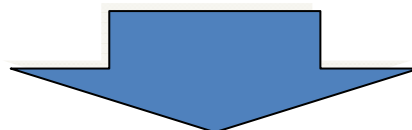
○産業別就業者数（15歳以上）政令指定都市比較

(単位：%)

産業	札幌	仙台	さいたま	千葉	川崎	横浜	相模原	新潟	静岡	名古屋
第一次産業	0.4	0.9	0.7	0.7	0.4	0.5	0.6	3.6	2.7	0.2
第二次産業	13.8	14.6	18.5	16.8	19.8	19.6	24.0	21.3	25.5	22.3
第三次産業	76.5	81.2	73.6	75.4	73.6	74.8	70.0	71.0	67.6	69.2
分類不能の産業	9.3	3.3	7.2	7.1	6.2	5.1	5.4	4.1	4.2	8.3

産業	京都	大阪	堺	神戸	岡山	広島	北九州	福岡	熊本	浜松	全国
第一次産業	0.8	0.1	0.5	0.7	2.7	1.0	0.8	0.6	3.7	4.2	4.0
第二次産業	19.3	20.6	22.6	18.7	20.3	20.6	23.6	12.7	16.0	34.4	23.7
第三次産業	69.2	68.8	68.3	73.4	70.5	73.5	70.3	77.9	75.4	59.1	66.5
分類不能の産業	10.7	10.5	8.6	7.2	6.5	4.9	5.3	8.8	4.9	2.3	5.8

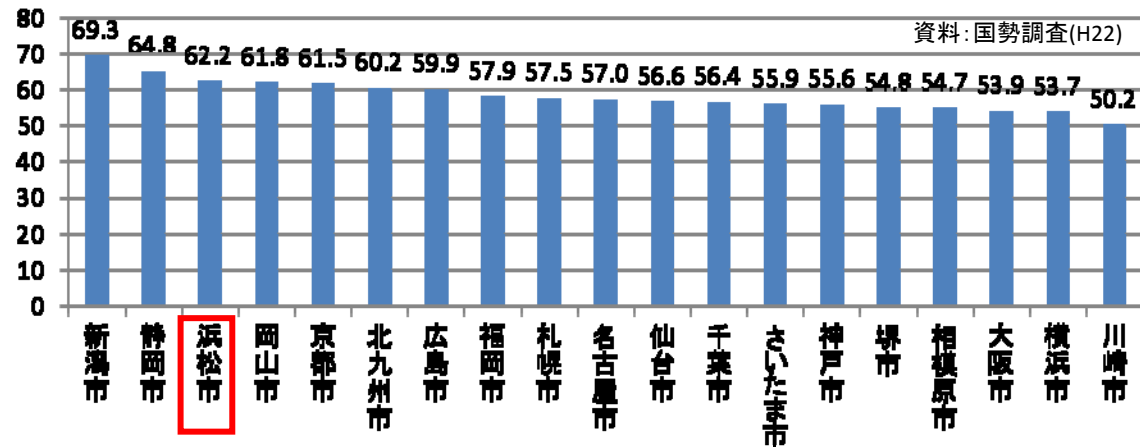
資料：平成22年国勢調査



有効求人倍率は1.2倍(平成26年10月)。しかし人口流出は進む。
若者世代の定着のために、創造都市・浜松の産業はどこを目指すのか？
特徴を伸ばす？ 産業構造の転換？

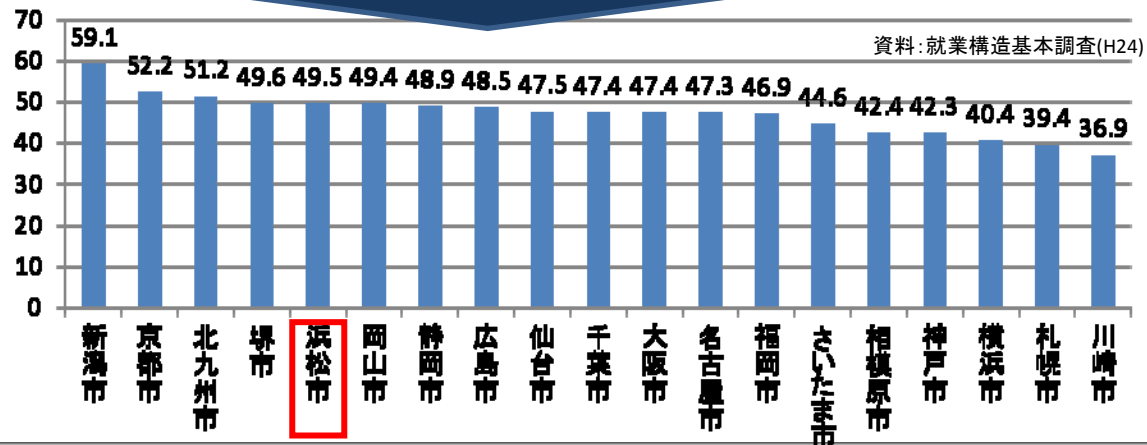
【現状分析④】本市の女性就業率の特徴

政令市別
30歳代の女性就業率
第3位



高い就業率が
育児により低下

政令市別
育児をしている
女性の有業率
第5位



生産年齢人口の減少を補い、地域経済を支えるためには、女性労働力の確保は必須。
子どもを生み育てながら働くことのできる環境整備が求められる。

【現状分析⑤】 浜松市が広域的に担う役割

※数値はH22国勢調査による

浜松市の人口 800,866人

三遠南信地域の人口の33.7%

県西部地域の人口の58.0%

三遠南信地域の中核として
地域の人口 2,373,836人



静岡県西部地域の中核として
8市1町の人口 1,381,002人



地域のダム機能を果たすため、中核的な機能を担う本市は、雇用確保が求められる。

SWOT分析による重点戦略の導き出し

【人口構成の最適化に向けた課題】

- ①出生率の増加
- ②人口流出の抑制

【都市の将来像】

市民協働で築く
「未来へかがやく創造都市・浜松」

【現状分析】 浜松市の特性（内部要因）

強み (Strengths)

- ・第1・2次産業の就業率が高い
- ・出生率が高い
- ・女性の就業率が高い
- ・三遠南信地域の連携が盛ん
- ・健康寿命が長い
- ・創造都市の推進

弱み (Weaknesses)

- ・転出超過（社会減）が続いている
- ・若者（18～22歳）世代の流出
- ・産業構造の転換期
- ・雇用のミスマッチの発生
- ・高い女性就業率が子育てを機に後退

社会経済環境の変化（外部環境）

機会 (Opportunities)

- ・国の地方創生総合戦略の基本目標
- ①雇用の創出
- ②地方への移住支援
- ③妊娠～子育ての切れ目ない支援
- ④地域と地域の連携

脅威 (Threats)

- ・年少人口の減少
- ・生産年齢人口の減少
- ・老年人口の増加

機会×強み
成長戦略（強みで機会を生かす）

- ・新産業・創造的産業の創出
- ・子育て支援の充実
- ・三遠南信地域の中核機能の強化

脅威×強み
回避戦略（強みで脅威を克服）

- ・子育て支援の充実
- ・UIIターンの促進
- ・高齢者の活躍促進

機会×弱み
改善戦略（弱みを克服し機会を逃さない）

- ・若者世代の雇用、創業支援
- ・女性が働き続けられる環境の整備

脅威×弱み
改善戦略（弱みを克服し最悪の事態を防ぐ）

- ・雇用のミスマッチの解消
- ・高齢者の活躍促進

人口構成の最適化に向けて 3つの重点戦略

生産年齢人口(若者世代)の定着

出生率の増加

重点戦略①

あらゆる職を興せます！ 選べます！
若者がチャレンジできるまち

重点戦略②

地域の子どもは地域で育てる！
子育て世代の徹底サポート

重点戦略③

ノーベル賞受賞者輩出の常連に！
創造産業があふれるまち

生活基盤の安定

若者・子育て世代の定住促進(三遠南信地域への波及)

【参考目標数値】三遠南信地域の人口

2010年

2,373,836人(H22国勢調査)

2040年

2,000,000人の維持

1,975,470人(国立社会保障・人口問題研究所推計)

1,913,694人(日本創成会議・人口減少問題検討分科会推計)

浜松市における長期ビジョン・総合戦略の対応表

長期ビジョン（～2060年）

- I.人口減少問題の克服
2060年に1億人程度の人口を確保
国民希望出生率=1.8
- II.成長力の確保
2050年代に実質GDP成長率1.5～2%維持

総合戦略(2019年度までの5か年) 基本目標

- ①地方における安定した雇用を創出する
- ②地方への新しいひとの流れをつくる
- ③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- ④時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

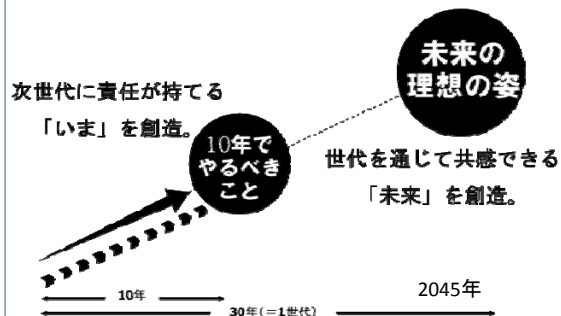
具体的な施策

・「政策パッケージ」の形で地方に必要なと考えられる支援策を用意

国

- ・住まいのトレンド、経済の動向などの未来を見据える社会経済環境の調査
- ・人口推計を補完する詳細調査

人口推計に基づく理想の未来 浜松市総合計画(～2045)



1ダースの未来

つくる【創る】 「見たこともない」 感動をつくる。	たかめる【高める】 自然の恵み×浜松スパイス ＝付加価値。	いかす【活かす】 日当たり良好、 未来に無駄なし。	めぐらす【巡らす】 エコ(ecological)＝ エコ(economical)
つなぐ【繋ぐ】 「飯食」が田舎、 両方あって丁度良い。	みとめあう 【認め合う】 寂しくない、 だから、うまくいく。	ささえあう 【支え合う】 安心で選ばれる。 安全だから選ばれる。	はぐくむ【育む】 子どもは将来を担う地域の宝、 みんなで愛情を注ぐ。
みのも【暮る】 若者に引き継ぐ、 カッコいい若い方。	はたらく【働く】 「やってみよう」を 自由にチャレンジ。	かえる【変える】 「やってみよう」を スリムになりたい。	むすぶ【結ぶ】 もはや遠距離は、 婚けではない。

(H26.12 議決)

人口減少に着目した浜松の総合戦略

基本目標①

- ①あらゆる職を興せます！選べます！
「若者がチャレンジできるまち」

基本目標②

- ②地域の子どもは地域で育てる！
「子育て世代の徹底サポート」

基本目標③

- ③ノーベル賞受賞者輩出の常連に！
「創造産業があふれるまち」

- ・地域住民生活等緊急支援のための交付金
- ①地域消費喚起・生活支援型
- ②地方創生先行型実施計画提出 (H26・27年分)

- ・事業ごとに重要業績評価指標(KPI)を設定し、PDCAサイクルにより進捗管理

浜松市



浜松市
HAMAMATSU CITY

浜松市人口ビジョン、浜松市総合戦略策定方針
浜松市企画調整部企画課
平成27年4月